



ひめさゆり

山形市立高瀬小学校
学校だより No.3
令和8年6月25日
校長 菱川 若葉

「紅花まつり」にむけて「自分から」の取り組み

来月4日（土）～5日（日）に行われる「山形紅花まつり」への参加にむけて、子ども達は準備を進めています。この学習で、高瀬地区の人々の思いや願い等に触れながら、多くの方々と接することができています。このことは、子ども達にとって生きた学びになっていると思います。



4・5年生

昨年度から総合的な学習の時間を中心に、調べ学習や栽培、観察、調理、実習などを行い、高瀬地区の歴史や伝統、紅花に関することをたくさん学習してきました。昨年度のうちに、班ごとにまとめたもの（保護者の方には学習参観などでお見せしているもの）を、今回は高瀬地区や紅花のことをよく知らない人（高瀬地区以外の人）にも、わかりやすく伝えようと言葉を選んだり、パンフレットの字や絵を丁寧にいかいたり、発表の方法を考え役割を決めたりして、今、一生懸命にまとめているところです。自信をもってステージに立つには、まだまだ練習が必要ですが、頑張っている発表にしたいと張り切っています。



6年生

●オープニングで演奏する「いのち太鼓」を「もっと自分達のものにしたい」という思いから、21年前に作曲なさった三森聡先生（当時は本校の教頭先生でした）をお迎えして、いのち太鼓の成り立ちや、いのち太鼓に寄せる思いなどをお聞きしました。また、太鼓の演奏をきいていただき、アドバイスもいただきました。三森先生からは、リズムとメロディーは全く変わっていないが、児童数の大幅な減少等により、使用する楽器の種類や演奏の仕方が変わってきていることを教えていただきました。そのことを初めて知った6年生は、自分達で相談し、三森先生からいただいたアドバイスを基に、当時に近づくような工夫を加え練習をしています。紅花まつり当日は、昨年度までとは少し違った「新生 いのち太鼓」を演奏します。楽しみにしてください。



●紅花まつり1日目の午前、実行委員の方々と共に運営スタッフとして、全体アナウンスと案内、切り花プレゼント、紅花畑のガイド等のお手伝いをします。それに先立ち12日に、紅花まつり実行委員の方々とは打ち合わせをしました。また、「できるだけ多くの方に紅花まつりに来てほしい」と山形駅等でパンフレットを配布しながらのPR活動もしました。初めは11日だけの予定でしたが、



「もっと自分達の言葉で伝えられたはず」という子ども達の振り返りから、19日に再度出かけました。「もっとこうしたい」「もっとこうなりたい」と再チャレンジすることは、子ども達にとって大きな意義のあることです。「招かれる紅花まつり」から「招く紅花まつり」にするために、自分達のやれることを考え、地域の方々と一緒に頑張っています。

初めて食べた 自分でついたお餅



4～6年生は、鑑水さんに高瀬の臼と杵のお話をききました

餅つきを「月の中でうさぎがしているもの」と認識している子もいました。ですから、餅がつきあがっていく過程を見るのも珍しく楽しかったようです。いただいた臼とコミセンから借りてきた臼の2つで、縦割り班の仲間と一緒に餅つきを行いました。

2月に臼と杵を寄贈してくださった鑑水憲一さんをお招きし 17 日に餅つきを行いました。本当は、お孫さんが在学している昨年度中に開催したかったのですが、日程の調整がつかず、今回になりました。予想気温30℃の体育館の中で餅をつき、みんなで食べるのはどうかなと心配もしましたが、思ったより気温が上がらず、無事に楽しく美味しくいただくことができました。餅つきを初めてする子は半分ぐらいいましたし、



はじめは、ボランティアの方々にもち米を練ったりついたりしていただき、その後、子ども達が1人3回くらい杵でつきました。餅の粘りと杵の重さでなかなか思うようにいかなかった子は「見ているより難しかった」と感想を口にしていましてし、経験のある子は「臼の真ん中に杵をおろすことができた」と満足気でした。誰が餅をついている時でも、みんなで「よいしょ、よいしょ」と大きな声で励ましている姿は、さすが高瀬っ子です。その甲斐あって、全員でふわふわの餅をつくことができました。あんこ餅ときなこ（ちょっとしょっぱい!?)餅を食べた後、お代わりをする子もいました。「何もつけない白いお餅が食べたい」と申し出る子が多いことに驚きながらも、つきたての美味しさが1番感じられるのは白い餅かもしれないと、子ども達の味覚に感心しました。鑑水さんから「高瀬の子ども達のために」といただいた臼と杵ですので、何かでお使いになる時は、いつでも学校にご相談ください。



はじめは、ボランティアの方々にもち米を練ったりついたりしていただき、その後、子ども達が1人3回くらい杵でつきました。餅の粘りと杵の重さでなかなか思うようにいかなかった子は「見ているより難しかった」と感想を口にしていましてし、経験のある子は「臼の真ん中に杵をおろすことができた」と満足気でした。誰が餅をついている時でも、みんなで「よいしょ、よいしょ」と大きな声で励ましている姿は、さすが高瀬っ子です。その甲斐あって、全員でふわふわの餅をつくことができました。あんこ餅ときなこ（ちょっとしょっぱい!?)餅を食べた後、お代わりをする子もいました。「何もつけない白いお餅が食べたい」と申し出る子が多いことに驚きながらも、つきたての美味しさが1番感じられるのは白い餅かもしれないと、子ども達の味覚に感心しました。鑑水さんから「高瀬の子ども達のために」といただいた臼と杵ですので、何かでお使いになる時は、いつでも学校にご相談ください。

学校のあちこちから



●「ツバメ」の続報

スズメやカラスのちょっかいや嫌がらせ（そう見えるのは人間のエゴかもしれないが・・・）にも耐えツバメの雛がかえりました。目視で3匹いるようです。親鳥が甲斐甲斐しく餌を運び、それを大きな口をあけてむかえている雛鳥。よく目にする光景ですが、目の前で見るとつい微笑ましく笑みがこぼれます。羽繕いを始めた雛鳥達。旅立ちももうすぐのようです。

鑑水憲一さんをはじめ、今回ボランティアで来校くださった保護者の方々、地域の方々に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



今年は、この時期からクマの出没が全国各地で見られ、連日ニュースになっています。本校でも、先週、積極的な送迎を保護者の皆様をお願いしたところ、ご協力いただき、大変有難かったです。今後も、子ども達の命を一番に考え、教育活動を行って参りますので、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

